

# 株式会社ヒロケイ



すべてのお客さまのベストパートナーに

## 50周年、もういちど「h」からはじめよう

人とコンピューターではなく、人と人が情熱の心を持って向き合う姿。これからも「すべてのお客様に“ベストパートナー”と呼んでいただける存在となること」をビジョンとし、起点広島島の「h」、すべてのお客さま“人=human”の「h」を胸に抱き、新たな未来に羽ばたき続けるヒロケイ。ヒロケイは50周年を迎え、もういちど「人」を見つめ、「人」と向き合い、お客さまと共に手を取り進んでまいります。これからもよろしくお願いいたします。

株式会社ヒロケイのホームページ



(左より) 代表取締役社長 水本 健二 様  
 健保事業部 健保サポート第2部 担当課長 山崎 純代 様  
 健保事業部 健保サポート第2部 部長 稲留 伸司 様

### 会社概要

- 本社所在地:〒136-0071 東京都江東区亀戸2-35-13 新永ビル3階
- 従業員数:146名
- 事業内容:情報システムのコンサルティング、システムの開発・提供、システム保守・技術サポート、パッケージソフトの開発及び販売、情報処理サービス、情報機器の販売、労働者派遣業務
- URL:https://www.hirokei.co.jp/

の防止効果もあり、経過が明確でお互いの状況をしっかり把握できるため、テレワーク実施者や管理職の社員から好評でした。チャットツールに不慣れな社員も多いため、勉強会を開き、コンパクトな内容で送信する等のルールを明確にしたいと思います。

## 定例のWeb会議を5拠点つないで実施 スムーズな進行で今後の活用に弾み

モデル実証事業では、東京、大阪、広島に加え、在宅勤務とサテライトオフィス勤務を含めた5拠点10名をつないでのWeb会議を行いました。当該会議は週1回の定例会議で、進行中のプロジェクトの共有やその課題、対策案を議論するものです。当社は部署内に広島や大阪のメンバーが所属しているため、各支社をつないだWeb会議はトライアル前から行っていました。テレワーク実施者を交えた大規模なWeb会議は初めてでした。テレワーク中の社員は専用のヘッドホンを活用することで、ハウリングや音割れすることなく、スムーズに会議に参加できました。多拠点・遠隔地に

も関わらず議事も通常通り進行し、問題なく会議ができたので、今後の活用の弾みとなりました。

### モデル実証を終えて

## 実証結果を生かし在宅勤務実施率の 昨年度比10%増を目指す

今回テレワークを行うに当たり、自分の業務をチームで共有したり、見直すことで業務を改善することができました。業務の棚卸しは生産性向上につながります。テレワークができる業務を見極めることで、さらなる効率化を図っていきたくと思います。課題としては、社員のほとんどがエンジニアで客先常駐も多いため、全社員にとって不公平感のない制度をどのように作るかということです。それについては、社員の意見を取り入れながら、当社に合った方法でテレワークを進めていきます。在宅勤務実施率の昨年度比10%増を目標に掲げ、社員アンケートを参照しながら、2019年度中の制度の見直しと、実施率の拡大を進めていきます。

経営課題

# 既存の在宅勤務制度を見直し、働きやすさを向上

## 解決ポイント

## 5拠点をつないだWeb会議や チャットツールの活用で業務報告が円滑化

### 帰郷する社員の雇用継続を視野に テレワークの本格導入を検討

当社は、流通業や金融関係を中心に様々な企業の情報システムのコンサルティング、システム開発・保守・技術サポート、パッケージソフトの開発・販売等幅広く行っています。2011年3月まで広島県に本社があったため、広島県出身の社員が多数在籍しています。今後広島県にいる家族の介護が必要となる社員が出てくる可能性があることや、将来は広島県へ戻ることを希望する社員が多数いることから、広島県に戻った後も雇用を継続できる制度として、テレワークが有効ではないかと考えました。当社には既に在宅勤務制度がありましたが、障害による通勤困難等、特別な事由がある一部の社員しか利用していない状況でした。既存制度を見直し、効果や生産性を再検証して、幅広い社員が使えるよう本格導入を進めたいという経営層の思いがあり、モデル実証事業に参加しました。

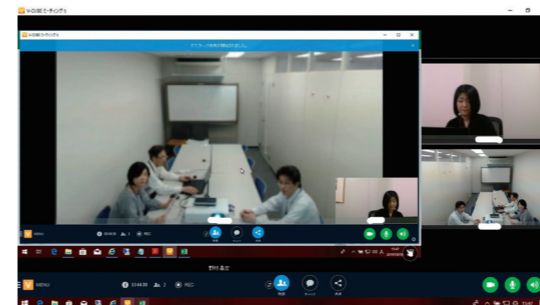
### 社員の希望と家庭事情を考慮 多様な部署から実施者を選定

モデル実証事業の対象者は、業務内容を踏まえ、社員の希望と育児等の家庭事情を考慮し、7名を選定しました。在宅

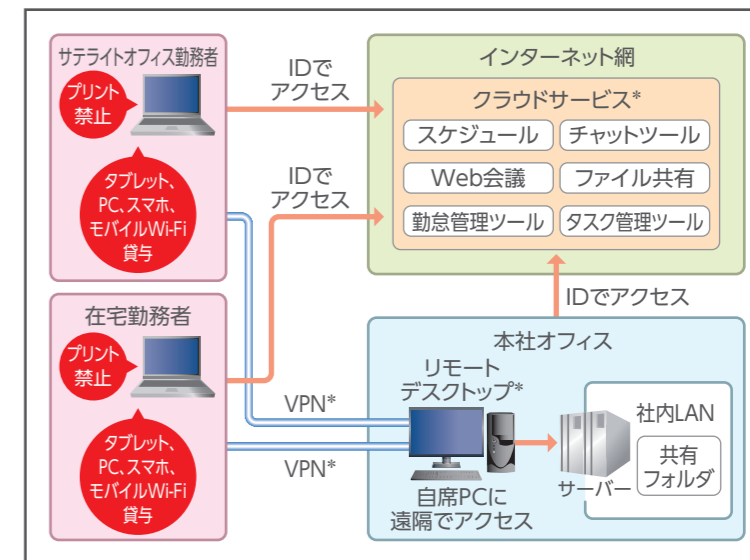
勤務は総務部、事業推進部、健保事業部、システム開発部から計4名、サテライトオフィス勤務は営業部2名、管理者1名の計3名です。テレワーク時は貸与したノートパソコンからリモートデスクトップ\*を使用して会社のサーバーにアクセス。在宅勤務は週に1回と定め、事前に上長に申請して認められた場合に実施するルールです。業務の進捗についてはチャットツールを対象者とその上司で利用しました。また、既に活用していた勤怠管理ツールに、在席・離席のボタンを押すと管理者に自動で通知される機能を追加し、始業と終業の連絡が行える仕組みを構築しました。サテライトオフィスは主に営業担当の社員が外出時に利用し、アポイントメントの合間に資料作成やWeb会議を行いました。また、モデル実証事業開始前に実施者を対象に研修を開き、「テレワーク中はチャットツールでこまめな連絡を心掛ける」等の注意事項を共有しました。

### チャットツールを活用して スピーディな進捗管理を実現

既に導入していた顧客管理システムにチャット機能がありましたが、なかなか活用が進んでいない状況でした。そこで、今回新たにボタンの位置等操作性が高く、使いやすいチャットツールを導入しました。進捗状況の確認等の連絡で使用しましたが、メールよりもレスポンスが早く、共有漏れ



在宅勤務者と会議室でWeb会議を行う様子



### 経営課題

- 既存の在宅勤務制度の見直し
- 将来的に介護をしながらでも働ける環境作り

### 導入概要

- 在宅勤務4名、サテライトオフィス勤務3名の計7名を選定
- 貸与したノートパソコンからリモートデスクトップ\*で自席のパソコンにアクセスするセキュアな作業環境を構築
- チャットツールによる業務の進捗確認や、5拠点をつないだWeb会議を実施
- アポイントメントの合間にサテライトオフィスにて資料等を作成

### 導入効果

- テレワーク実施に伴う業務の棚卸し
- チャットツール活用による速やかな作業進捗の共有
- 複数の遠隔地をつなぐWeb会議がスムーズに実施可能なことを体感

## ADVICE コンサルタントからのアドバイス



モデル実証事業では、社員の希望と育児等の家庭事情を考慮し、多様な部署から人選し、充実した成果を上げることができました。特に、実際にテレワークを実施してみると、チャットツールやWeb会議等ICTツールの活用に対する理解が深まったと思います。テレワーク導入の際、ICTツールの導入が不安な企業もあるかと思いますが、そうした場合でも一度体験してみると、コミュニケーションの円滑化を実感できると思いますので、ICTツール活用に関する説明会や社内研修を実施しながら、トライアルを行ってみてください。

注釈(\*)の用語解説はP57をご覧ください。